

高岡西高校三年

吉野 圭太

北日本新聞 八月十八日 三十五面

八月十七日 僕が学校から学習塾へ向かう

四時頃に前が一面の白い壁になつたよな雨

かうちつた。地球温暖化と言われている中

異常気象が多いけれどもこの耐え難い暑さ

の中の降水はともうれしく感じられる。

しかし大雨による浸水、交通事故の多発

や交通機関の遅延などを考えるとするならば

僕が内心に思つていた涼しくなるという

気持ちは素直に喜ばないことだと思う。特に

水の破壊力、人の命を奪う力というのはい計り

知れないと東北大震災で嫌なほどおそわつた。

たつた。一日の豪雨、またと人に限らず気象台

の警報に耳を傾け行動していかねばならぬ

ない。

富山県は四季の区別が明かかであると思ふ。

梅も見分ける紅葉も見分ける。この大雨や冬の

大雪などは一般的には邪魔くないものである

かと思ふ。その雨や雪溶けの水が、黒部峡

谷 又はかみか放水する水となっ
ちろん雨が少なくて梅紅葉は見
い。その自然が五箇山などの景
色を盛り上げている。言い換
えればこの私たちが見て心
を安らかにする。または富山を
住みやすく良場所とするのは
雨による水に全て由来している
と考えられる。

雨というものは私たちの足か
せとある場合もあるが生活を豊
かにしている。その中で豪雨に
限らず、起こりうる自然現象に
うまくと対象し暮かしを築いて
いく重要性が明らか。というの
は大切であり人類のたのしみを
知っている。

この記事は環境保全に対する考
えを深く考へてくくるものであ
る。